

事例集の内容

以下に示す1～12の項目を整理しました。

1 情報発信型

1 支援の類型

2 支援の具体例

支援の例

- 通信（園だより、学級だより、保健だより、給食だより等）
- ホームページ ○連絡帳 ○掲示物 ○保護者会
- 子育て講演会 等

3 保護者に役立つこと

保護者にとってのメリット

- ・園での幼児の生活や学びを具体的に知らせてもらう
- ・幼児の育ちを理解する一助となります
- ・得た情報をもとに、自分の子育てや幼児へのかかわり方について軌道修正することができます

4 支援を行うにあたって満たしておきたい保育の質の基準

支援となる保育の質を保つための視点

- ・発達観が園内で共有されていること
- ・取り、及び援助が適切であること

5 支援の際に心がけたいこと

行事等の事実の羅列だけでなく、幼児の経験内容や育ちの見通し、保護者の意図的なかわりなど教育的な観点からの考察をわかりやすく伝えること。

園からの一方通行ではなく、保護者との双方向的なものとなるよう工夫する。

6 研究協力園の実践事例

(2) 保護者の知的好奇心を喚起する園だより

＜岩手大学教育学部附属幼稚園＞

要旨・D
(学習・伝達・説明、発達の見方)

7 育成型支援の要素

具体的なエピソードから、保育の意図を伝える

行事予定や園報等は、教務が発行する「月のお知らせ」で行われる。園報は、園報委員が作成し、園報委員と保護者の目線を合わせた園報の姿をもとに考察し、子どもの育ちや発達について、保護者へ伝える。

8 各事例における工夫

保護者から本を手にとり読み取ることができ、保護者の育ちに対する視野を広げたり、もっと深く学ぼうと本を手にとり読み取らせるきっかけを作る。

9 支援を行うための準備や手順

準備・手順

園報の中で具体的なエピソードを収集する。

園報委員が園報委員と保護者の目線を合わせた園報の姿をもとに考察し、子どもの育ちや発達について、保護者へ伝える。

10 具体的な資料提示

資料3 具体的なエピソードを基に育ちを伝える園だより

えんだより

岩手大学教育学部附属幼稚園 2014. 7. 18 No. 10

心の育ちに目を向けて

入園・進級から3か月余り、園内各所で、様々な遊びが繰り返されるようになってきました。自分から環境にかかわって、やりたいと思うことを存分に楽しんでいる子どもたち。「へえ、こんなこと思いついたんだ！」「いいこと考えたねえ。」「まあ、これはすごい！」、子どもたちが生み出す遊びの面白さに驚かされたり、感動させられたり、驚きからなる学びが増えてきました。

「アスレチックのブランコから下を覗いているロープのところが面白くて、「行くぞ」という気持ちが大変だね。」とつぶやいていたAちゃん。挑戦を繰り返して、登りきると、両手の喜びを浮かべて「がんばりました！」と一言。「帰ってすぐいしょ」という自分への自信、「やればできるわ」という自分への可能性が伝わってきました。

また、森のキッチンで、石臼で粉をすりつぶしていたBちゃん。「先生見て、このクリーム、きみどりの色だよ。あのね、色をつけようと思って、赤い粉で作った色水を加えたら、きみどりになったんだよ！」「さう、色に色がついたら、ピンクになるでしょ！」「それが、きみどりになったの！」と、嬉しそうに報告してくれました。

「このように、子どもたちは、園報を通じて、保護者へ自分の育ちや発達について伝えたいと願っています。保護者へ自分の育ちや発達について伝えたいと願っています。保護者へ自分の育ちや発達について伝えたいと願っています。」

「育ちや発達について伝えたいと願っています。保護者へ自分の育ちや発達について伝えたいと願っています。保護者へ自分の育ちや発達について伝えたいと願っています。」

11 工夫点を解説

資料3 具体的なエピソードを基に育ちを伝える園だより

早くできることがいいことか

人間の成長していくためには、どうしても一定の時間が必要なのではないでしょうか。一歳の子が二歳の時に必要としている時間、二歳なら三歳の時に必要としている時間、子どもは安心して成長してゆける気がします。子どもは社会で成長してゆける気がします。子どもは社会で成長してゆける気がします。子どもは社会で成長してゆける気がします。

人の成長の過程で、なにをやるために何かを我慢する必要があります。たとえば字を覚めるようになることで、長いおはなしを覚える、絵本の絵の細部に気付いたりすることは自然とできるようになります。けれどもそれが人の身のうちからの成長に伴って、我慢することが必要になってくるのです。

一本の木の成長が伸びる時には、古い葉は自然に落ちていきます。けれども無理やり新しい葉を早く出そうとして、古い葉を残してしまえば、新しい葉は育ちません。そのように、その木は自然に育ち、新しい葉を育てていくことができます。

12 事後の保護者の反応や変容

保護者の声

「子育ての中で忘れかけていたようなことを気づかせてくれる内容が多くあるのだから、園報の姿がよく分かるだけでなく、親として子どもとどうかわればよいかなどでも勉強になる」

「園報が読めなくなっていたときに、園だよりに何度も心を打たれた。親も様々な学びがあった」

「コンスタントに発行されていて、子どもたちの様子がよく分かり、毎日安心して送り出している」

成果と課題

- 各園の子育ての支援を総体として考察した結果、園の保育の質の向上が、保護者の幼児期の教育に対する理解力の向上につながっていることがわかりました。
 - 子育ての支援の質的充実をさらに支えていくための保育の質の向上をはかることが必要です。
- この研究の研究報告書及び事例集は、岩手県立総合教育センターWebページに掲載しています。

研究主題

幼稚園・こども園・保育所における子育ての支援の進め方に関する研究

—親と子が共に育つ支援の質的充実を図るための事例集作成を通して—

【研究担当者】 吉田 澄江 新沼 健
【この研究に対する問合せ先】
TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562
E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

研究の目的

現在、ほとんどの幼稚園等で子育ての支援が行われています。しかし、「子育ての支援」という名の下に、園側が何でも手を貸しすぎて親が育つ機会を奪ってしまっていたり、本来主役になるはずの幼児が大人の都合でないがしろにされたりしている例が少なくありません。

また、「幼児教育は目先の結果のみを期待しているのではなく、『後伸びする力』を培うことを重視している」(中教審答申, 2005)ことや、「幼児の内面に働き掛け、一人一人の持つ良さや可能性を見だし、その芽を伸ばすことをねらいとする」(回答申)といった幼児教育の本質にかかわることを各園が正しく理解すること、保育の中でそれを実現していくこと、そして発信していくことが十分にできていないために、幼児が遊びの中で主体的に試行錯誤することよりも、早く効率よく何かができるようになることを望む保護者が増えるなど、幼児期に育てるべき力を育てにくい状況が見られます。

子育ての支援は、保育の外注化やサービス化として進めるのではなく、園と保護者のパートナーシップを形成し、幼児の健やかな成長につなげるのが大切です。

そこで、この研究では子育ての支援を「保護者の幼児期の教育に関する理解力の向上」という視点で見直し、質的に充実させていくための進め方について研究し、研究協力園での実践事例を通してその有効性を明らかにした上で、その成果を「親と子が共に育つ子育ての支援事例集」としてまとめました。この事例集を参考にし、各園でよりよい子育ての支援を実践することにより、幼児の生きる力の基礎を培うことにつなげていきたいと考えています。

幼稚園等における子育ての支援の分類

幼稚園等における子育ての支援を、蒲原基道氏(2006)の分類を参考に、以下のようにまとめました。

分類	内容	具体例
育成型支援	保護者が子育てに意義を感じ、前向きに取り組むようになるための精神的な支援	園での保育参加・保護者の学びの場の提供等
代替型支援	保護者の子育ての負担感を物理的に減らす支援	預かり保育・延長保育

この研究で取り上げるのは幼児の生きる力の基礎を育むことにつながる「**在園児の保護者に対する育成型支援**」とします。

- 幼児の生きる力の基礎を育むことにつながる支援とは
 - ・幼児との愛着関係が深まるような支援になっている
 - ・幼児期の発達を理解し、その発達に即した子育てを進める意欲が喚起できる支援になっている
 - ・幼児が本来もっている主体性、能動性を大事にしようとする態度が養われる支援になっている

育成型支援の要素

- A 園と保護者の信頼関係の構築
- B 保護者の幼児期の教育に関する理解を深めるための園からの働きかけ
(学習・体験・相談の機会の保障, 伝達・説明)
- C 保護者の幼児への共感的関心, 子育ての喜びの実感
- D 保育者等他者の幼児へのかかわりやまなざしによる保護者の発達の見方の学び
(モデリング)

『幼稚園教育要領解説』及び那須信樹氏(2014), 伊藤良高氏(2014), 井桁容子氏(2015)の考えを参考に, 上記4点を要素として考えました。

事例集に取り上げた子育ての支援の事例は, この4点を相互に関連させて, 保護者が子育てに意義を感じ, 積極的に子育てをしようとする状態を作り出そうと試みたものです。

育成型支援の類型

育成型支援の要素のA~Dの実現のための子育ての支援の在り方を, 那須信樹氏(2014)による分類を参考とした子育ての支援の類型を作成し, それに基づいた実践を各園に依頼し, 検証しました。

幼稚園等における在園児の保護者に対する育成型支援の類型

類 型	ねらいと内容	実践例
情報発信型支援	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活や保育内容・幼児の学びや育ちを可視化する(要素A, B) ・保育の意図や子育てに有益な情報を発信する(要素B, D) 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信 ・ホームページ ・連絡帳 ・掲示物 ・保護者会 ・子育て講演会 等
行事・体験型支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちの連続性と園と保護者の連携を意識化(要素A, C, D) ・我が子と共に他の幼児を見ることで, 幼児理解を促す(要素B) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参加 ・保育参観 ・親子遠足 ・運動会 ・発表会 等
相談・援助型支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者個人の相談・助言など悩みを解決したり, 幼児理解を深めたりし, 保護者の不安感を解消する(要素B, D) ・園の職員との信頼関係をつくる(要素A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談 ・家庭訪問 ・送迎時の会話 ・連絡帳 ・電話相談 等
居場所・交流型支援	<ul style="list-style-type: none"> ・園内サークル等の活動を通して保護者同士の親睦を深める(要素B) ・活動を通して保育に参加する(要素C) ・保育参加後や保護者会時にグループでのディスカッションで考えや視野を広げる(要素B, D) 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内サークル ・保護者会 ・保育参加後のミーティング ・茶話会 ・談話会 等

検証—実践事例

情報発信型支援に取り組んだ事例を紹介します。(九戸村立幼稚園ひめほたるこども園の実践)

育ちのプロセスの見える化を図る玄関掲示物

- ◇幼児の活動が分かるコメント入り掲示をする
- ◇保護者と保育者, 保護者同士をつなぐコミュニケーションツールとする

情報発信型支援
(要素A, B, C, D)

これまで

行事の様子や
集合写真



日常の遊びの経過が
見える写真



子どものつぶやきや
経験内容等を文字化



掲示板前が, 親子や保護者同士のコミュニケーションの場に

保護者

先生が言っていたことが「このことだったんだ」と理解が進んだ。

幼児の遊びが体験的な学びであることに気づき, 行動の意味が分かり, 共感的に捉えられるようになった。

保育者

写真を見ながら保護者と話す機会が増え, 園で行っている保育の意義を理解してもらえるようになった。

保護者が幼児を共感的に捉えられるようになったことで, 幼児も生き生きと園生活を送れるようになった。

事例集の概要

事例集は, 理論編, 実践事例編から構成されています。



I 理論編

- 1 子育ての支援って?
- 2 幼稚園等における子育ての支援の分類
- 3 育成型支援の必要性
- 4 育成型支援の要素

II 実践事例編

- 1 情報発信型支援
- 2 行事・体験型支援
- 3 相談・援助型支援
- 4 居場所・交流型支援